

薬用植物園だより

2025年

12月

陰が極まる冬至に収穫。滋養強壮に！

トウネズミモチ (モクセイ科)

Ligustrum lucidum W. T. Aiton

部位	果実
生薬名	果実：女貞子（ジョテイシ） 局外生規
成分	リグルスドゥモシド A（セコイリドイド） オレアノール酸、ウルソール酸（トリテルペン）など
薬理	免疫調節作用、抗ウイルス作用、抗酸化作用、肝保護作用
薬能	滋陰薬
漢方	二至丸（ニシガン）：女貞子＋旱蓮草（カンレンソウ）

中国原産の常緑小高木。日本へは明治以降に持ち込まれ、大気汚染に強く、移植が容易で成長が早いことから、道路や都市公園の緑化樹として、多く植栽されました。近年、都市近郊の二次林や河川敷への侵入が問題となっており、生態系被害防止外来種リストに掲載されています。在来近縁種としては、ネズミモチ (*L. japonicum* Thunb.) があります。和名の由来は、モチの木に似ており、果実がネズミの糞に似ていることが由来の様です。薬用としては、成熟した果実を女貞子と呼び、漢方薬の二至丸に配合されます。この薬は、陰陽論より、陰が極まる冬至に収穫する女貞子と陽が極まる夏至に収穫する旱蓮草（タカサブロウの地上部）の二つを組み合わせることから二至丸と名付けられ、耳鳴りや更年期障害、倦怠感に効果があるとされています。薬膳としては、成熟した果実を焼酎に1年以上漬けて、女貞子酒として滋養強壮を期待して用いられます。

サルトリイバラ (サルトリイバラ科)

サルも絡まる？餅などを包む葉として利用

Smilax china L.

部位	根茎
生薬名	菝葜（バッカツ）
成分	Smilaxchinoside A-D、ジオスシン（ステロイド）
薬理	抗炎症作用、抗癌作用、抗酸化作用、抗菌作用など
薬能	利水薬、消腫
用途	かつては梅毒の治療に使用、関節痛の治療



東アジア原産の落葉つる性の低木で雌雄異株。東南アジアまで分布しています。日本では、北海道～沖縄まで自生しており、カシワ (*Quercus dentata* Thunb.) の分布が少ない西日本より以西では、「柏餅」は本植物の葉で包む地域が多く、「いばら餅」などとも呼ばれています。和名は「猿捕茨」で鋭いトゲで猿が絡まるからという説があります。薬用としては、中国薬典（2020）に菝葜（バッカツ）という名称で収載されていますが、18改正日本薬局方には収載が無く、同属のナメラサンキライ *Smilax glabra* Roxb. の塊茎を基原とする山帰来（サンキライ）が収載されています。その名は、病院が無かったその昔、老人や不治の病人（梅毒など）が山に捨てられたが、本植物を食べて元気になって帰ってきたことが由来であり、悲しい歴史が映し出されています。



ホームページでも
ご覧いただけます